

平成21年3月期 会社説明資料

平成21年7月

株式会社プラコ -

(J A S D A Q . 6347)

平成21年3月末現在

商号 株式会社 プラコ -

本社 埼玉県さいたま市岩槻区笹久保新田550番地

代表者 代表取締役社長 秦 範男

設立 昭和35年8月

資本金 1,205百万円

売上高 2,981百万円 (平成21年3月期実績)

従業員 84名

昭和35年8月	プラスチック工業㈱を創立（資本金100万円）
昭和36年8月	埼玉県川口市に新工場を建設、押出機及びプロ - 成形機を本格的に生産開始。
昭和42年10月	東京都港区に本店を移転。
昭和45年5月	埼玉県岩槻市（現・埼玉県さいたま市岩槻区）に浦和工場を新設。
昭和47年1月	商号を株式会社 プラコ - と改称。
昭和47年11月	埼玉県川口市に本店を移転。
昭和48年2月	日本証券業協会に店頭売買銘柄として登録。
昭和48年11月	株式額面変更の為、江東機工株式会社と合併。
昭和55年5月	プラコ - エンジニアリング㈱設立（機械部品加工会社、平成18年4月吸収合併）
昭和62年7月	静岡県掛川市に工場用地を取得。
昭和63年7月	埼玉県岩槻市（現・埼玉県さいたま市岩槻区）に本店を移転。
平成3年5月	静岡県掛川市に掛川工場を新設。
平成7年1月	㈱プラコーテクノサービス設立（メンテナンス会社、平成18年4月吸収合併）
平成9年4月	リサイクル装置の生産、販売に本格参入し、リサイクル元年とする。
平成13年3月	埼玉県の彩の国指定工場に認定される。
平成16年12月	㈱ジャスダック証券取引所に上場。
平成18年4月	4月1日付けをもって連結子会社2社を吸収合併
平成20年5月	富拉鑫股份有限公司(台湾)設立。（機械製造会社）
平成21年5月	富拉鑫股份有限公司(台湾)解散。

1. インフレーション成形機事業

当部門において、フィルム製品（レジ袋、ゴミ袋、農ポリ、ラップ、多層、機能）を成形する為のインフレーション成形機を製造及び販売をしております。

2. ブロ - 成形機事業

当部門において、中空製品（自動車部品、工業用部品、日用雑貨品）を成形する為のブロ - 成形機を製造及び販売をしております。

3. リサイクル装置事業

当部門において、環境の一環でありますリサイクル装置（破碎機、洗浄機、乾燥機、造粒機等）を自社技術と一部を海外メーカーとの技術提携によって、製造及び販売をしております。

4. メンテナンス事業

当部門において、機械のメンテナンス及び部品の販売をしております。

平成21年3月 決算概要

株式会社プラコ -
(J A S D A Q . 6347)

当会計年度における我国経済は、原材料価格の高騰が続き、また、昨年秋以降は米国発の世界的な金融不安などにより、世界同時不況となり、企業業績や雇用状況の悪化などにより景気は一層の後退を続けております。

当社の関係するプラスチック加工業界においても、自動車の減産や景気の後退により設備投資が減少し、特にブロー成形機事業は厳しい状況になりました。また、環境リサイクル関連業界においては全般的には引き続き成長が見込まれるものの、廃棄プラスチックのリサイクルに関しては、プラスチック加工業界の需要低迷とプラスチック原料価格の急激な低落などによる設備投資の見合わせ等により当社の主力商品である一軸式破碎機事業も厳しい状況でありました。

このような状況下、販売面では、新商品や当社の得意分野である多層機等を主力とした営業活動を行いました。景気の悪化によりユーザーの設備投資は慎重な姿勢であった為、受注は低迷致しました。また、生産面では、生産の内製化および海外仕入れを強化し、引き続きコストダウンに努力致しました。

以上の結果、当会計年度においては過年度分の売上訂正により繰り越された受注分が売上計上として追加されたことにより、売上は29億8千1百万円（前期比15.4%減）となりました。また、損益面につきましては、検収条件をより厳格に精査するなかで、追加の費用が発生したことや、決算修正に伴う費用、さらに、棚卸資産の低価法による損失及び減損損失の計上により、営業損失1億2千8百万円（前期は営業損失2百万円）、経常損失1億8千1百万円（前期比182.7%増）、当期純損失6億4百万円（前期比522.7%増）となりました。

損益計算書（非連結）

（単位：百万円）	20年3月期	21年3月期	前期比	備 考
売上高	3,522	2,981	541	景気悪化による設備投資の減少 自動車関連の部品成形用の減産 リサイクル装置の設備投資の減少
売上原価	2,741	2,263	478	
販売費及び一般管理費	783	846	63	研究開発費の54百万円の増加 業務委託費(有価証券報告書等の訂正報告書 作成費)の増加
営業利益	2	128	126	
営業外収益	11	17	5	
営業外費用	73	70	3	
経常利益	64	181	117	
特別利益	7		7	
特別損失	33	508	475	棚卸資産除却損・評価損 158百万円 減損損失 328百万円
法人税、住民税及び事業税	6	85	92	
当期純利益	97	604	507	

20年3月期は、平成20年9月26日訂正報告書提出後の数値です。

貸借対照表（非連結）

（単位：百万円）	20年3月期	21年3月期	増 減	備 考
流動資産	2,334	1,094	1,240	現預金の減少及び売上債権の減少、たな卸資産の減少
固定資産	1,209	865	343	固定資産の評価損・減損及び除却
資産合計	3,544	1,959	1,584	
流動負債	2,161	1,455	705	短期借入金・長期借入金の減少
固定負債	931	669	262	再評価に係る繰延税金負債減少
負債合計	3,093	2,124	968	
資本金	1,205	1,205		
資本剰余金	3	3		
利益剰余金	1,020	1,489	469	
自己株式	3	5		
株主資本合計	183	286	469	
評価・換算差額等合計	267	121	146	株式の評価額の減少、土地評価差額金減少
純資産合計	451	165	616	
負債純資産合計	3,544	1,959	1,584	

20年3月期は、平成20年9月26日訂正報告書提出後の数値です。

キャッシュ・フロー計算書（非連結）

（単位：百万円）

	20年3月期	21年3月期	比較増減	備 考
営業活動による キャッシュ・フロー	131	51	79	売上債権の減少及び仕入債務の減少と たな卸し資産の評価損の増加
投資活動による キャッシュ・フロー	19	18	1	定期預金の減少、子会社株式の取得
財務活動による キャッシュ・フロー	92	331	424	短期・長期借入金による返済
現金及び現金同等物の 増加額	203	298	502	
現金及び現金同等物の 期首残高	250	453	203	
現金及び現金同等物の 期末残高	453	154	298	

20年3月期は、平成20年9月26日訂正報告書提出後の数値です。

部門別売上高

(単位：百万円)

部 門	20年3月期		21年3月期		比較増減	
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	増減率
インフレ - ション成形機事業	1,381	39.3%	1,290	43.3%	90	6.5%
プロ - 成形機事業	1,061	30.0%	767	25.7%	294	27.7%
リサイクル装置事業	690	19.6%	582	19.6%	107	15.6%
メンテナンス事業	388	11.1%	340	11.4%	48	12.4%
合 計	3,522	100.0%	2,981	100.0%	541	15.3%

インフレ - ション成形機事業

原料価格の高騰やレジ袋の環境問題もある状況で引続き全体的に非常に厳しい状況でした。

プロ - 成形機事業

自動車関連の部品成形用生産の減少により、需要が非常に厳しい状況でした。

リサイクル装置事業

廃プラスチックの価格低落と景気の後退によるリサイクル装置の設備投資の減少。

メンテナンス事業

設備の新規導入の減退と需要低迷に伴う機械稼働率の減少により部品販売も減少。

20年3月期は、平成20年9月26日訂正報告書提出後の数値です。

平成22年3月期 業績予想

株式会社プラコ -

(J A S D A Q . 6347)

業績予想（非連結）

（単位：百万円）	21年3月期	22年3月期 （予想）	増	減
売上高	2,981	2,379		602
営業利益	128	83		211
経常利益	181	26		207
当期純利益	604	19		623
EPS（円）	76.95	0.80		77.75
ROE（%）	422.8	43.7		-

EPS = 1株当たり当期純利益

ROE = 自己資本利益率

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

経営方針

当社は、インフレーション成形機及びブロー成形機などのプラスチック成形機と、環境リサイクル機器の製造、販売を主たる業務として、社会生活の向上と環境保全に役立つ商品を提供する事によって、社会に貢献すると共に、適正利益の確保によりと企業の継続と発展を目指し、さらには、株主への適正配当と従業員生活を安定、向上させることを方針としております。

今期の取り組み

1．債務超過からの脱却

平成21年3月期において、たな卸資産の評価、除却損失及び減損損失を計上し、大幅な損失になった結果、165百万円の債務超過になりました。この状況を解消すべき次の施策を実施します。

資本の増強

株主増資の実施による資本の強化を行い、債務超過の解消を図ります。

売上高の確保

国内外の業界ニーズに対応すべく、高付加価値、高効率生産、省エネルギー及びクリーンをキーワードとする各事業別の新商品を開発し、それらを社内展示会、インターネット、業界紙、業界専門誌などを通じた宣伝により販売力を強化いたします。また、必要機能を絞り込み、経済的な生産手段(後進国からの部品調達または現地生産の活用)を積極活用することにより経済成長が見込める中国、東南アジア地域向けの商圏の獲得を図ります。

コストの低減

コストの引下げに関しては、合理的設計の強力な推進と生産手段・生産方法の改善など設計、生産工程の現業におけるコスト低減を実行するとともに、海外仕入の増加を図り全社的にコスト低減策を実行してまいります。

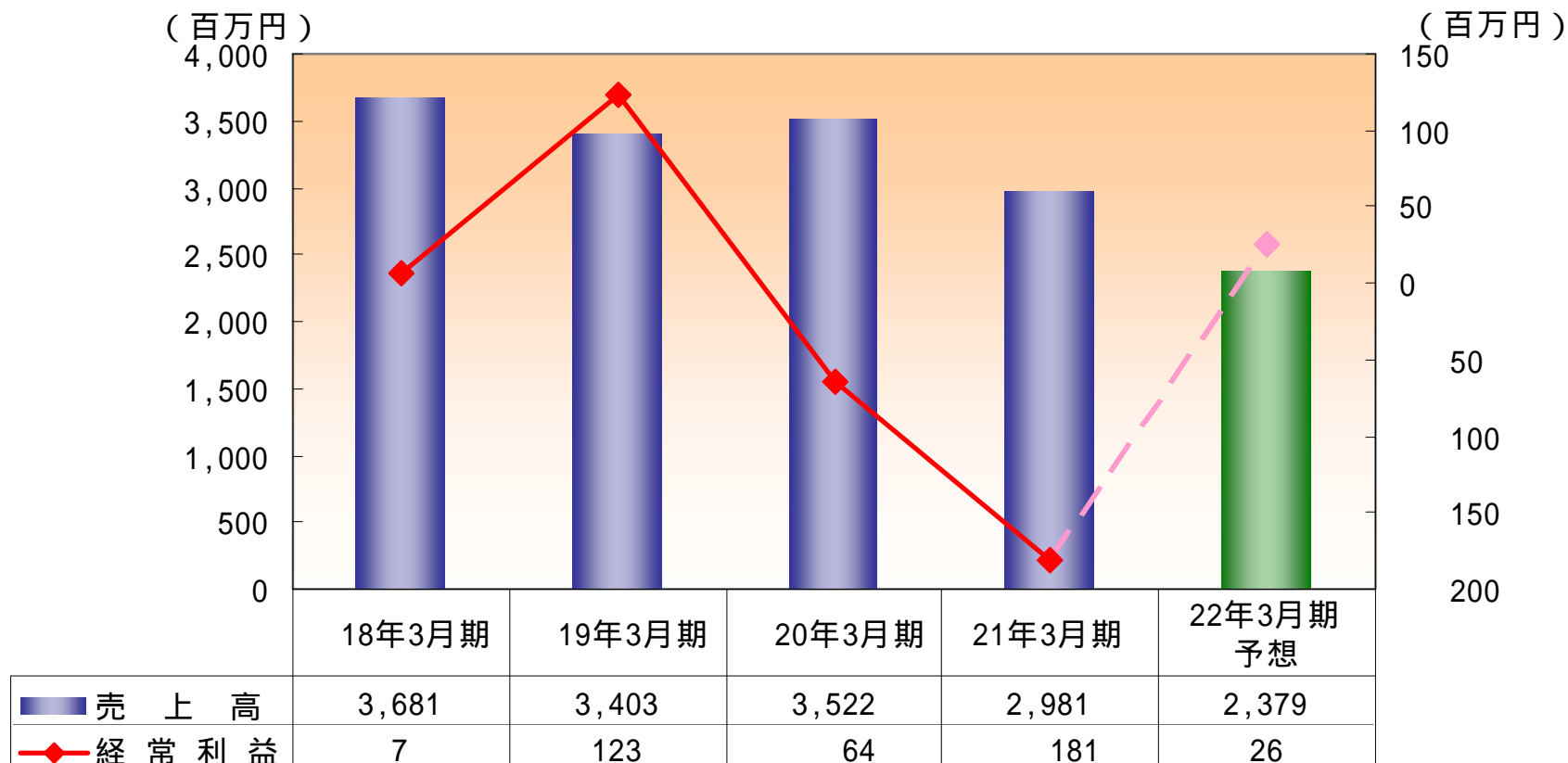
固定費の削減

退職者の補充を行わず人件費の削減や費目毎の見直しを行い、経費削減を行います。

2．内部統制の強化

平成21年3月期において、監査法人から内部統制について意見不表明の意見書が出されたので、内部監査室を設置し、専従者を1名新たに専任し、内部監査人、各業務担当従業員による内部統制の拡充を図ります。

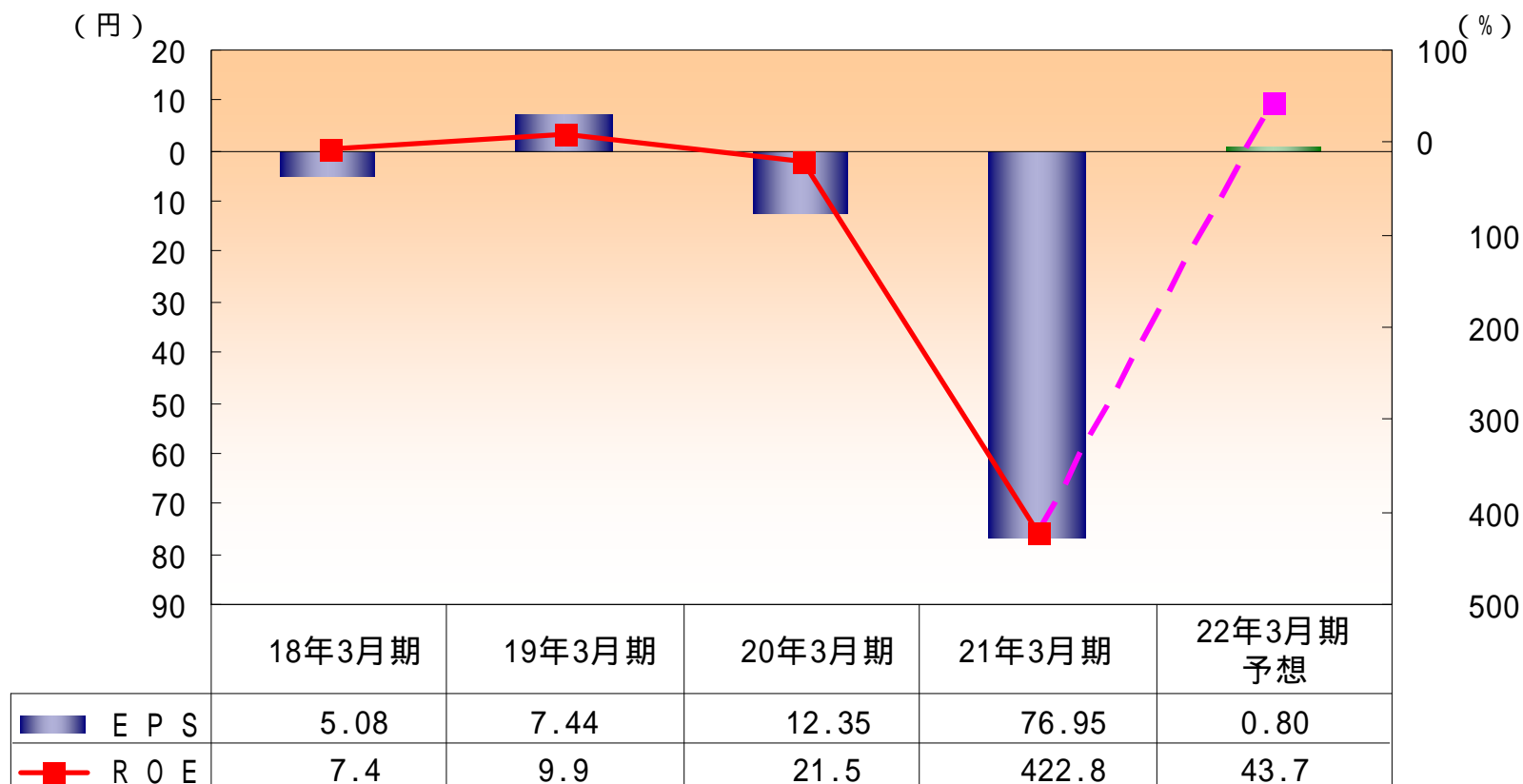
売上高・経常利益の推移（非連結）



18年3月期、19年3月期、20年3月期は、平成20年9月26日及び29日に訂正報告書提出後の数値です。

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

EPS・ROEの推移（非連結）



18年3月期、19年3月期、20年3月期は、平成20年9月26日及び29日に訂正報告書提出後の数値です。

EPS = 1株当たり当期純利益

ROE = 自己資本利益率

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

 株式会社プラコ -

担当部： 経理部

T E L： 048-798-0222

E-mail： placo@placo.co.jp